

稲グリ新聞

〈発行〉
早大グリーンクラブOB会
稲門グリーンクラブ
〈編集〉
加藤 晴二 生 郎 豊 了
原 信 二
佐々木 川
石 川
〒192-12武蔵村山市大南
2-26-12 頼原信二郎方
TEL (0425) 65-1839
(毎月1回発行)

稲グリ「ソビエト連邦演奏旅行」案

急拠検討始まる

来年五月、モスクワ、レニングラードを目指して

来年五月の連休を利用しての稲グリ海外演奏旅行候補地は昨年より、ハワイ、ソ連、その他が挙げられていたが、三月十日(金)の幹事会でソビエト連邦への演奏旅行案をとり上げて、その実現に努力していくという方針に決定した。この計画は、T。飯沢郁郎さん(三二)が、たまたま仕事上つな

がりのあるソ連通の藤田さん(上智大卒・日商岩井)に稲グリのことを話したことで、それならばソ連大使館に紹介しましょうということになったのが発端。今年一月二十四日、飯沢さん、藤田さんに福井会長、頼原マネを加えて、四月の稲グリ演奏旅行の可能性を一

等書記官のB・V・クラスリン氏に打診した結果、二月二十七日藤田さんを通してソ連大使館より「全ソビエト音楽協会」から受入れOKの返事が来たもの。受入れ条件等はこれから稲グリと全ソ音協との間で詰めなければならぬが、その前に稲グリとし

て決行するかどうかの意志決定をするために、現在、メンバー(昨定演、台湾、中国演奏旅行参加者等)に緊急アンケートを実施している。一定の人員が揃うかどうかによって正式に態度決定をする予定となっている。

ボニー「オラトリオ」、男声陣少なし 稲グリメンバー多数のご参加を!

担当マネージャー 安斎 真治(四七)

四月二十八日(金)、両国国技館で公演される、ボニー・ジャック・ス結成三十周年記念の大イベント「オラトリオ・ヤマトタケル」愛と平和への旅立ち(たびだち)

に稲グリも出演しますが、主催者側がセットする男声だけの練習日の日時がまだ決っていません。これについては追ってお知らせするとして、別に稲グリ独自で左記の通り特別練習を設けましたので、出演メンバーは必ずご参加下さい。

① 四月一日(土) 午後二時~五時
奉仕園小ホール

② 十五日(土) 同時、同所
なお、ゲネプロは前日二十七日(木)の午前十一時から午後四時まで、両国国技館で行われます。

■ 服装 上下とも黒
■ 指 揮 合 唱 関 屋 晋
オ ケ 堤 大友 直人

という事になっていきます。女声陣は全国から大勢参加する模様ですが、男声が少ないとのこと。我が稲グリとして是非とも応援したいと思います。よろしくお願ひいたします。

稲グリ 活動日程

3月22日(水)	OB四連マネ会	19:00~	IBM会議室
28日(火)	練習	18:30~21:00	東混練習場
4月1日(土)	オラトリオ	14:00~17:00	奉仕園
4日(火)	練習	18:30~21:00	東混練習場
11日(火)	"	"	"
15日(土)	オラトリオ	14:00~17:00	奉仕園
18日(火)	練習	18:30~21:00	東混練習場
25日(火)	"	"	"
27日(木)	オラトリオ・ゲネプロ	11:00~16:00	両国国技館
28日(金)	特ステ・ボニー結成30周年記念「TEPCO 1万人のコンサート」オラトリオ「ヤマトタケル-愛と平和への出発(たびだち)」	15:00 開演	両国国技館
5月2日(火)	練習	18:30~21:00	東混練習場
3日(祝)	東京六大学合唱連盟演奏会	ゆうぼうと	東京文化会館
4日(祝)	"	"	東京文化会館
9日(火)	練習	18:30~20:00	東混練習場
	新OB歓迎会	20:00~	庄

■以下、毎週火曜日に加えて、随時「臨時練習」を予定

6月17日(土)~18日(日)	稲グリ強化合宿	河口湖・コニシ
24日(土)	東西四大学合唱連盟演奏会	東京文化会館
25日(日)	"	両日とも東京文化会館
7月8日(土)	第2回大学OG合唱団合同演奏会	サントリー大ホール
23日(日)	第7回東西四大学OB合唱連盟演奏会	東京文化会館
	13:30 開演予定	東京文化会館
10月22日(日)	早稲田大学「校友大会」特ステ	大隈庭園
12月3日(日)	「平成元年・総会」	私学会館
	「第8回グリーンクリスマス」	私学会館

■特ステ「オラトリオ」の練習日程変更にご注意
■前号・第2回OG六連7月2日は、7月9日の誤り

出席記録

	2/28	3/7	14
T ₁	3	9	7
T ₂	11	12	11
B ₁	7	11	6
B ₂	13	12	14
	34	44	38

■担当 篠松次郎(五四) 福島 敬(五五)

来年五月の「ソビエト連邦訪問親善演奏旅行」に向けて、現在その可能性を調整・検討中ですが、すでに本紙でご案内の通り、海外演奏旅行積立ての手続きも始まっています。まだ手続きが滞っていない方は早急に「口座振替依頼書(練習場にあります)」を作成の上、担当の福島さん(五五)宛提出して下さい。

「備えあれば、憂いなし」毎月の飲み代の一部をコツコツと貯めて、来たるべきビッグイベントに万全の体勢で臨みましょう。

稲グリ・海外演奏旅行 基金積立ての手続きはお早めに!

■費用 未定(これからの企画と交渉によるが、三十万円~三十五万円を目途とする。)

【ソビエト演奏旅行概要】
日程 一九八九年 四月二十九日~五月六日の間を予定
内容 全ソビエト音楽協会主催で公演を二回行う。モスクワ、レニングラード等

「ハミダシ編集後記①」同期の杉野耕一(五九・日経新聞記者)と一緒に編集局を訪ねたいというので、本日(二十一日)、高田馬場駅前のビッグボックス前で待ち合わせ。



【年度幹事総会出席者】平成元年三月十一日(土) 於・稲門倶楽部

OB四連ステージ、条件は揃った 各年度、精一杯のご協力を!!

【②】時間になったところで、すぐ隣の交番からお巡りさんが出てきて「佐々木さんはいませんか」何ごとかと返事をすると「友達の杉野さんから今日は仕事が入ったから」

今夏七月二十三日、われわれが当番団で開催予定の「東西OB四連演奏会」に向けてメンバー諸兄のネジを巻くべく「総決起大会」など何やら物騒なタイトルを銘打った年度幹事総会が、三月十一日(土)夕刻から赤坂「稲門倶楽部」で開かれた。

まず、年度幹事総会責任者の玉崎幹事(二七)から趣旨説明及び四連までに会員名簿を改訂発行するため、各年度ごとに記載内容の修正申告していただくようお願いがあり、次に福井会長(二九)からも同様の「ゲキ」が飛び、またこのOB四連演奏会に成功したら、来年にはモスクワ、レニングラードへの演奏旅行へという案についても説明があった。(これについては加藤幹事長(三七)からも前日(十日)行われた幹事会結果報告の中で説明があり、取り敢えず参加希望のアンケート等への協力をとの要請がなされた。)

「一まず、東西OB四連は今年四年振りの東京公演であること。それも八年振りにワセダの当番であること。稲グリ演奏曲目が早大ハインサイドのバンドつきの「ウエストサイド・ストーリー」と、若く、華やかでリズムカルな曲であること(しかも編曲がジャズっぽいときている)。指揮が昨年のサントリーホール定演で大成功を納めた東京交響楽団の堀俊輔さん(五〇)と決まったこと。また、有方メンバーから関係各方面にいろいろ強力な影響力を行使して頂いたお陰で、東京文化会館という願ってもない会場が取れたこと。」

「一したがって、これだけ意欲的な条件が揃っているのに、いつものように慢性的歌い込み不足を何とか演奏会当日ツツマだけ合わせてしまおう悪しき習慣と妙な自信(自惚れ)のままでは軽妙なりズム感も若々しい響きも出てきつこない。何とか若手メンバーの引っぱり出しと譜読み練習に精を出して、ゴールデンウィーク明けには暗譜歌い込みに入る積もりで努力して欲しい(何とムチャな声あり)。」

「早大校友大会」特ステ、秋に延期

「是非ともメンバー諸兄の積極的ご参加とご協力をお願いする次第。」と。

大学当局から正式連絡

担当 長尾 要(二四)

昨年秋から延期となり、今五月連休中となっていた「早大校友大会」への稲グリ出演は、この程早稲田大学総務部を通して校友会から正式に連絡があり、この秋、十月二十二日(日)にということになりました。

自粛ということでしょうか。校友会側では、稲グリ出演は当然のように計算に入っている様子で、重ねて日程の念を押さされていました。

メンバー諸兄には、大隈庭園でのあの飲み放題、喰い放題を夢見つつ予定表に入れておいて下さい。

《第7回》
東西四大学O・B合唱連盟演奏会
プログラム広告募集!
 1989. 7. 23(日) 於・東京文化会館(上野)

【広告ご出稿要領】

- プログラム=A4判、20頁予定
- 印刷部数 4,000部(全国のOBにも配付予定)
- 広告スペース・料金及びサイズ

1頁	100,000円	18×26cm
1/2頁	50,000円	18×13cm
1/4頁	30,000円	18×6cm

■広告申込み締切=5月末日、原稿締切6月末日(完全版下)
 ■担当=稲グリ・穎原(42) ☎(自)0425-65-1839(勤)03-291-1566

中に関くそうですが、歌舞音曲は

小旅行(京都・宝塚・神戸)

山本健二バリトンリサイタル・イン・宝塚のこと

稲グリ新聞特別委嘱記者・福井 忠雄(二九)

清荒神(阪急宝塚線・きよしこうじん)駅に着いたのは夕暮れ迫る六時すぎ、宝塚ベガ・ホールはすぐそばにあった。開演までおよそ一時間もあつたので、駅前のお茶店でお茶を飲んでみると、大阪稲グリの田村、有田両君が入ってきた。京都の病院に入院中の坪井大、阪稲グリ会長(二八)を見舞ったこと、ウエストサイドは後半の三曲ぐらいを集中練習してオンステージよとか、早速報告やら指示やらで旅の気分はフツフツと日常のペースとなつてしまつた。坪井さんは手術のあとは生々しいが大変元気で、コバルト照射は続けなければならぬが、あと一ヶ月ぐらいで退院とのことであつた。声帯は取つていないのだから段々と馴れればまた悪口をたたくだろう。そうあつて欲しい。

「日本の心を歌う」山本健二リサイタルが終つて、富永商事経営の居酒屋「わらじ」で大阪稲グリのメンパーと酒をくみ交す私の隣には永井君が座つて居るのだから、前夜の「庄や」の二次会を宝塚でやつているようなものだ。今日淡路島でとれたという目の下三尺の大鯛の活き作りが特に山本君への馳走として出され、本人よりも私達が余計に頂いて、東京よりは十分内容が違う。

山本君の歌は朝日生命ホールなどで何度も聴いて居るが、ホールが違ふところも違ふものかと改めてホールが音楽を作るものかといふ実感をもつた。枯れた響き、暖かい響き、人それぞれ好みもあるが、リサイタルや室内楽には最適のホールではあるまいか。お国自慢が首をもたげて、帰京した

ら早速、御茶の水のカザルスホールへ行ってみようと思つた。稲門グリーの大きな花籠が一つ飾られた舞台上、伴奏の萩原さんと登場した山本君は、稲門のメンパーのお陰でこの地で歌わせて頂き、宝塚市長や四〇〇名近い人達に聴いてもらえる喜びを話してから演奏を始めた。ステージは四部に構成され、第三ステージは賛助出演として地元の女声合唱団クローバーエコーが広瀬重平の「海鳥の歌」を演奏した。山本君は各ス

ステージのはじめに、二、三の曲に解説を加えてから歌つたが、その話に感動した女房が「耶子の実」の歌に老いたる魂をゆきぶられ涙しているのをみて、たまには旅をするのも悪くないナと思つた。

翌日は宝塚ファミリアランドを富永夫妻がわざわざ案内してくれ、大劇場で雪組公演を初めて見物して驚いた。夜は神戸でステッキを、ライブハウスでジャズを夫妻と楽しみ、三日目は京都の庭園を二、三散策、小旅行を終えた。(完)

インタビュー 帰国した岡君(新四年)に聞く

現役グリー「中国演奏旅行」、無事終了

■現役グリーの中国演奏旅行がさる三月五日から同十七日の日程で行われた。以下は、帰国したばかりの岡秀樹OB担当マネ(新四年)に佐々木豊現役担当マネ(五九)が電話でインタビューしたものの(文中、Oが岡マネ、Sが佐々木マネ)。

S:お帰り。どうだった、中国は? O:ええ、とっても楽しい思い出ができました。天気にも良かった恵まれ、同行してくれた女性も美人だったし……

S:演奏会はどうな様子だったの? O:北京、杭州、上海の三都市で、それぞれ現地の大学のホールなどでその大学の合唱団とジョイントの形式で開催しました。グリーも稲本先生の棒のもと、まずまずの演奏だったんじゃないかと思ひますが、杭州では師範大学の音楽科の学生が相手で「まいった!」という感じがした。愛曲や「富士山」は大体予想通りの反応でした。一番受けたのは、坪井俊策先輩(二四)から楽譜をいただいた「大海啊故乡」ハイアグーシヤン。「海よふるさと」の意図は大正解でした。

S:へえ。それでお客様の入りは? O:とても良かったんですけど、会場がいつも全寮制の大学だったので、おそらく半強制的に聴かされたんじゃないかと思うんです。S:観光も結構楽しめたりうね?

O:はい。万里の長城や揚子江下りまで満喫して来ました。食事では北京ダック、マーボ豆腐をはじめ本場の中華料理の数々やお茶、お酒に舌鼓を打ちました。

S:それは良かった。ところで、演奏旅行と言えはハブニングやエピソードがつきものだけど、今回は何かあったかな?

O:三都市のほか、観光のために行った西安で、自称「流しの薬屋」とか言う「馬(マー)ちゃん」なる人物に追い回されて困つたことや、杭州から上海へ向かう列車が人身事故を起こしたこと、飛行機が欠航して待ちぼうけした代りに空港でガンガン歌いまくつて注目を浴びたことなど、いろいろありましたがね。それから明るい話としては、同行の上田稔会長(教育)学部教授が旅行中に還暦の誕生日を迎えられ、長寿を祈念するライメンやバースデーケーキでのお祝いをしたことがあります。

S:まだまだ楽しい話があります。けど、続きはまたのお楽しみにさせてもらおうよ。そうそう、お世話になつた方々へのお礼を忘れないうちにね。

O:はい。早速「帰国報告書」に着手したいと思ひますが、まずは、「稲グリ新聞」読者のOBの皆様や関係者の方々に厚く御礼申し上げます。どうも、ありがとうございます。

今後とも現役にこそ支援を

新OB 三瓶 雅夫(平成元年卒・前部長)

平成元年二月十七日の送別演奏会をもちまして、私共の学年も四年間のグリーライフを無事終了致しました。任を終えた今、先輩諸兄の親身なる御指導、御鞭撻に対し、改めて心よりお礼申し上げます。

今となつては、活動時の困難や苦労はどこかへ消え、楽しかったことばかり思い出されます。しかし、その充実感、感動に対する回想の代りに、現在の現役状況について記させて頂きたいと思ひます。

現役活動環境を要約して言えれば次のようなことになります。①団員数減少、②ファミリアコンサート化(顧客減少)、③諸経費上昇、④特

ステ減少、⑤学生気質変化、⑥休部者増加、⑦未納金累積、さらに学生者の余暇が一般的に個人的かつ容易な趣味を指向する傾向にある一方、観客の曲に対する趣向と演奏主体のそれとの乖離(かいらい)とが相まつての「合唱」のマイナー化等々。

こうした状況のもと、近年「財政難」が深刻な問題となり、私共の代も就任期において「活動の幅の拡張を主眼とする」という基本目標を定めました。それは、個人生活におけるこの上の金銭的圧迫を回避するという目的をもつものでもありません。同期の中には未納金を払うため

に自分のバイクを売った者もいました。現役グリーは現在、その大きな歴史の流れの中で様々な選択を迫られています。少くとも、情性的・近視眼的方策のみでは、活動規模の縮小は免れ得ぬものと推察致します。私共も伝統は守られるものであると同時に、創られるものと考え、実行してまいりました。

O Bの諸先輩の皆様におかれましては、「限られた任期」という絶対条件の下、困難に直面せざるを得ない後輩達に対し、今後とも一層の御助力・御配慮の程お願い致します。グリークラブが未来永劫輝き続けるために……

最後にになりましたが、今後とも御薫陶の程、宜しくお願ひ申し上げます。長い間本当にありがとうございました。

O:はい。万里の長城や揚子江下りまで満喫して来ました。食事では北京ダック、マーボ豆腐をはじめ本場の中華料理の数々やお茶、お酒に舌鼓を打ちました。

S:それは良かった。ところで、演奏旅行と言えはハブニングやエピソードがつきものだけど、今回は何かあったかな?

O:三都市のほか、観光のために行った西安で、自称「流しの薬屋」とか言う「馬(マー)ちゃん」なる人物に追い回されて困つたことや、杭州から上海へ向かう列車が人身事故を起こしたこと、飛行機が欠航して待ちぼうけした代りに空港でガンガン歌いまくつて注目を浴びたことなど、いろいろありましたがね。それから明るい話としては、同行の上田稔会長(教育)学部教授が旅行中に還暦の誕生日を迎えられ、長寿を祈念するライメンやバースデーケーキでのお祝いをしたことがあります。

S:まだまだ楽しい話があります。けど、続きはまたのお楽しみにさせてもらおうよ。そうそう、お世話になつた方々へのお礼を忘れないうちにね。

O:はい。早速「帰国報告書」に着手したいと思ひますが、まずは、「稲グリ新聞」読者のOBの皆様や関係者の方々に厚く御礼申し上げます。どうも、ありがとうございます。

③「行けない」との伝言です」について「こんなことで、交番の電話を使わないように!」とのキツイお叱り。何のこっちゃ。



【④】杉野の悪口を言いながら編集作業中、E編集長のワープロの漢字一括交換機能が何故かダウン。以前にも彼の来襲の時、同様のことがあり、悪夢の再来であったのだ。 オッカシいなあ。(S)

堀俊輔さん、東京交響楽団の副指揮者に!!

三月十二日、稲グリ指揮者の堀俊輔さん(五〇)から今年四月より東京交響楽団の副指揮者となるとの喜びの連絡が編集局にあった。以下、東響の辞令。

(財)東京交響楽団は一九八九年春季楽季(四月一日)より指揮者団を以下の陣容で活動することに決めた。

音楽監督・常任指揮者	秋山 和慶
客演指揮者	小林研一郎
副指揮者	堀 俊輔
以上	

「山健りサイタル」後、来場したお客からの反響は大きく、各方面から賛辞の手紙や、再演の打診等が相次いで富永家に寄せられている。「次は、いつどこで開くのか」「テープはまだあるか」「中国からの帰国生活者(いわゆる元残留孤児)にも聞かせたい」「伊丹市(兵庫県)でも開いてほしい」等々。これらの対応で、ただでさえ東

富永家、音楽事務所に変身!?

京や神戸・大阪を股にかけて忙しい富永さんは音楽事務所のプロデューサーも兼ねる仕儀となり、何が何だかわからなくなっている由。



コーラスバンド

濱田 翼

(日本航空東京支店 スポーツデスク)

B₂ 小久保操さん(50)も熱血の活躍!
「この記事、稲グリ新聞にのっけてくれたら練習にも出るし、ソ連にも行くから」というわけです。ジックリと読んで練習に出てくるのを待ちましよう。(写真=一番右が小久保さん・東京新聞平成元年1月25日付)

社内のメンバー八人で作ったジャズコーラスバンド「タキンドジャズクシオン」が昨年十二月十八日にデビューした。ボーカル四人(後ろのバンドはそうはない。バンド名はスタンダードジャズナンバーの名曲からとったという。「学生時代にもやっていたので、その残り火がかき立てられたんです。メンバーは二十代後半から三十代後半。ボーカルが山本圭美(アシスタントパーサー)小川清恵(東京支店カウンター)の女性二人と、御立尚賢(企画室)小久保操(東京支店販売)の男性二人。ベース田口久雄(秘書室)ドラムス斎藤典和(企画室)キーボード板谷慎一(JALカード)ピアノが私。ほかには池田一(東京支店カウンター)テラスクがマネージャー、伊藤文雄(同販売)が司会として参加しています。一口三情報で知り合った仲間、宴会バンドではな

わたしの 余暇作戦

残り火ふたたび

く、しゃれつゝ
を持って、こた

わり、でやるつと、昨年二月に結婚しました。みんな忙しい連中なので練習日の調整がなかなかつかない。私は国内国際のスपोर्टイベントを



宴会バンドでなく こだわり持って

「一月十八日に反省会を開いたら、みんな忙し職場だし転勤も多いし、ずっとこのメンバーでやれるとは思えないが、それでいいと一致します。仕事も余暇も楽しいです」

日程調整は大変だけど 楽しいから仕方ない

「デビューは渋谷の「せいよう広場」で、右から二人が濱田さん

関学グリーからの手紙

稲門グリークラブ様

謹啓
春暖の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
日頃は何かと関西学院グリークラブのため特別のご配慮、ご支援を戴き有難く厚く御礼申し上げます。
また、この度の関西学院グリークラブ創部九十周年記念式典(編集局注二月二十六日)に際しましては、ご多忙の処また遠路はるばるご臨席を賜り、ご厚志まで頂戴致し、私共一同心より感謝いたしている次第でございます。御蔭様で記念式典も盛会裡に終えることができました。今後共さらに努力精進いたす所存でございますので、よろしくご支援、ご指導の程お願い申し上げます。
誠に有難うございました。
敬 具

一九八九年三月吉日

関西学院グリークラブ
九十周年記念事業会

編集後記

今号では、三月十日に開かれた幹事会での審議事項等をまとめて掲載する予定でしたが、スペース不足で断念。加藤幹事長に叱られます。でも大体の審議事項は他の記事の中で収められていますのでお読み取りを乞い願うものです。
一つだけ、OB会費の値上げ案が載っていません。これについては、次号以降で取り上げていく予定です。
それでは、次号まで、再見。
(E)